

「岐阜県ふるさと教育表彰」実践報告書

市町村名	飛騨市	学校名	飛騨市立古川小学校		
校長名	上口 淳	対象学年	全校	人数	412人
項目	○	① 小・中学校の関連性や発展性を踏まえた実践や、幼稚園、高等学校、特別支援学校等と連携を図った実践			
該当する項目1つ 以上に○を付ける	○	② 県内施設や地域人材等の外部資源を活用し、岐阜県が誇る自然・歴史・文化・産業等の体験を通して学ぶ取組を効果的に位置付けた実践			
	○	③ ふるさと学習を核として、総合的な学習の時間と各教科、特別の教科道徳等との関連を図った教育課程を編成し取り組んだ実践			
学校の教育目標	心豊かにたくましく 未来を切り拓く ～自分から・自分なら・みんなと～				
活動のねらい	ふるさと飛騨古川の自然や文化・地域に貢献している方の生き方を知ることから、自分も地域の一員であり担い手であることを自覚し、地域との関わりについて考え、発信していく活動を通して、めざす資質能力である「未来を切り拓く力～自分から・自分なら・みんなと～」を身に付けることができる。				
活動の特色・児童生徒の変容など					
1 ふるさとアドバイザー（FA）制度による地域講師・地域素材の活用 学校運営協議会が主体となり、各学年に「ふるさとアドバイザー（FA）」が配置され、学年のテーマやねらいに応じて地域講師や地域素材を紹介してもらったり、一緒に活動を考えたりしている。					
1年生テーマ「しぜんとあそぶ しぜんであそぶ」					
	生活科の「夏見つけ」では、古小サポーターの方に千代の松原公園で夏の虫や草、花などを使った遊びを教してもらった。「秋のおもちゃづくり」ではどんぐりやまつぼっくりを使ったおもちゃづくりなど、子どもたちと一緒に活動した。子どもたちは、自然を学ぶとともに、地域の方々とふれあうことで、地域の方に見守られ支えられていることを実感できた。				
2年生テーマ「古川の町探検 ～町を知る、町の人を知る～」					
古小サポーターの方に見守られながら、グループに分かれて、古川の町を自由に探検した。それぞれが自由に探検できたので、自分たちが知らなかった場所、お店、人に出会うことができた。					
3年生テーマ「古川食自慢 ～飛騨の食～」					
古川の「食」について知ることを通して、命の尊さについて考えた。給食センター見学では食のリサイクルについて、アスパラガス農家や蒲生畜産見学では私たちの命へとつながる植物・動物を大切に育てている方の思いについて知る事ができた。ふるさとの食やそれに関わるものを調べることを通して、毎日生きていくために生き物の命をいただいていることを実感し、命に感謝していきたいという思いをもつことができた。					
4年生テーマ「人にやさしい古川」					
「福祉」について、飛騨市社会福祉協議会の井下さん、飛騨市障がいのある人を支える会「ピース」の奈木さん、高山病弱児を守る会「あかりんぐ」の勝田さん親子、「わたしの助産師さん むすび」の長田さん、					

(様式1) 小・中学校、義務教育学校、特別支援学校(小・中学部)用



学校作業療法室「HABILIS-HIDA(はびりす・ひだ)」の山口作業療法士、視覚障がい者の下梶さんより、それぞれの立場から講話をしていただいた。また、車いす体験や高齢者疑似体験を通して、実際にどのような生活をしているか、どのような困り感があるのかに気づき、自分たちにできることについて考えた。

5年生テーマ「飛驒の米作りについて調べよう」

地域で米作りを行っている田中さんの指導を受けながら、米作りに挑戦した。その中で生まれた疑問を書籍で調べたり、飛驒市農林部農業技術専門監の鍵谷さんに質問したりして、飛驒の米についての理解を深めた。今後、収穫した米で五平餅やおにぎりを作ったり、学んだことをまとめて発表したりして、学んだことを形にしていこう。



6年生テーマ「ふるさとの魅力を学び・広げる」



古川の魅力について、講師の方の話を聞いたり、自分たちで調べたりした。講話で「祭り」「飛驒の匠」「飛驒の町並み」「増島城の歴史」について聞き、考えを深めた。今後は「飛驒の薬草」について学ぶ。その後、学んだ内容から伝えたいテーマを選び、パンフレットやプレゼンでまとめ、発表や展示をしていく。

全校テーマ「防災教育」

各学年で、古川町で起こりうる災害について考えたり、発達段階に応じて防災について学んだりした。全校で飛驒市防災士会の講話を聞き、引き渡し時に自分で考えて動けるように「自分なら」どうするかを考えることができた。



4年生では、「風水害」を主として、自分の家の備えや避難先などを社会科の授業で確認した。そして、「自助」としての家庭での防災について、保護者にインタビューしたりマイ・タイムラインを作成したり



することで、家族みんなで防災意識を高めることができた。

5年生では、飛驒市防災士会とも連携して通学路のハザードマップを作成した。保護者とともに通学路を歩いてもらい、防災の視点で危険な場所や避難の助けとなる箇所を確認した。それを、通学班集会で班員にアウトプットする予定である。

このように、「自分の命を自分で守る」ための知識を得て地域で実践を重ねていくことで、防災意識を高めていく。

2 学校運営協議会と児童会、学校職員が一体となった取り組み

6月には、「こんな学校にしたい!」という児童会の願いを学校運営協議会に伝え、協力をお願いする「児童と語る会」を開いた。9名の委員長が、笑顔満点の古川小を実現するために、熱い思いや願いを語った。あいさつ運動のサポートやスポーツ交流など、関わりを深めていくことを約束した。



3 児童の変容と今後の課題

○ふるさと教育の貫くテーマを「ふるさと&いのち」に設定し、自然や食、郷土等すべての活動の軸を整えたことで、目的を明確にして活動できた。このことは年度当初のF Aとの打ち合わせでも共有したため、学校職員とF Aが同じ視点で児童の指導にあたることができた。

○学校運営協議会と児童が直接意見交換する場を設け、願いを共有したことで、地域の方が積極的に関わってくださったり、児童が地域の一員としての自覚を高めたりすることにつながっている。

※目指す資質能力「未来を切り拓く力～自分から・自分なら・みんなと～」を身に付け、ふるさと飛驒古川を愛する児童を育てるために、今後も地域とともにふるさと学習を推進していきたい。